

2 10月の見通し

野 菜

10月初め頃までは引き続き曇天が続くそうだが、以降は高気圧に覆われやすく晴天が続く見通し。しかし、これまでの長雨・日照不足の影響は大きく、「キャベツ類」「はくさい」「レタス類」は巻きが緩く小玉傾向で箱数が伸びず、「きゅうり」「ピーマン」「なす」等の果菜類も曇天の影響により緩慢でダラダラした出荷が続くとみられる。

一方、「たまねぎ」「ばれいしょ類」は昨年の不作基調から一転、豊作基調となる見通し。

野菜全体の予想入荷量は前年並で平年をやや下回り、単価は前年をやや上回り、平年をかなり上回る見込み。

果 実

気温の低下とともに秋果実の需要が高まり、売り場の中心は「みかん類」「りんご類」「かき類」へと移行する。

「りんご類」は少なかった前年を上回る入荷量が見込まれる。「かき類」は高温乾燥が続いた西日本産地では小玉傾向や日焼け果の発生が懸念される。「みかん類」も小玉傾向で入荷量減少の予想だが、その分、高糖度品の発生率は高い見込み。

果実全体の予想入荷量は主要品目の増加に伴い前年をやや上回り平年並だが、需給緩和が見込まれることから、単価は安値となった前年をやや下回り、平年を大幅に下回る見込み。

品 目	入荷量(t)		単価(円/kg)		備 考 (主産地の生育状況等)
	前年比	平年比	前年比	平年比	
だいこん	⇒	⇓	⇒	⇒	主産地は北海道、千葉県。関東近産地の早播き分の出荷が始まり、夏産地と合わせて潤沢な入荷量となる見込み。サンマが不漁のため前年ほど引き合いは強くならず、11月以降は長雨の影響で入荷量減の見通し。 予想入荷量は前年並で平年をやや下回る見込み。
キャベツ類	⇒	⇓	⇒	⇓	主産地は群馬県、千葉県、茨城県。入荷量の約7割を占める群馬県産は6月の梅雨で定植できなかった時期の出荷にさしかかり、気温低下が早く生育が緩慢なことから大玉比率の減少も合わせ入り荷量減少が見込まれる。他の関東産地も台風、大雨等の影響で月内は数量が増え切らない見込み。 予想入荷量は前年並で平年をやや下回る見込み。
きゅうり	⇒	⇓⇓	⇒	↗↗	主産地は群馬県、埼玉県、福島県。曇天、長雨により東北産地は早めの終了となる。関東産地も曇天が続き日照不足となっており、好天が続けばピークを迎えるが、晴れ間の時期次第でピークも変動する。 予想入荷量は少なかった前年並で、平年をかなり下回る見込み。
トマト	⇓	⇓⇓	⇓⇓	⇒	主産地は千葉県、熊本県。中旬以降、抑制・夏秋産地の数量減少により端境に入る見込み。熊本県(八代)は地震による遅れもあったが、大雨の被害を受けた前年と比べると生育は良好で、8月の猛暑・干ばつの影響も限定的。例年どおり10月1日から選果開始。 予想入荷量は前年をやや下回り、平年を大幅に下回る見込み。
さといも	↗↗	⇓⇓	⇒	↑↑	主産地は埼玉県で入荷量の7割を占める。生育は順調で肥大も進んでいることから2L・L中心の入荷が期待され、正品率も高いことから豊作傾向。 予想入荷量は少なかった前年をやや上回るものの、平年をかなり下回る見込み。
かんしょ	⇒	⇓⇓	⇒	↗	主産地は千葉県、茨城県、徳島県。関東産地は台風の影響によりほ場の一部が冠水したことから廃棄が増え、入荷量は減少する見通し。徳島県は台風の影響は特になく、生育は良好。肥大も順調に進み、M・L中心で平年並の入荷を見込む。 予想入荷量は少なかった前年並で、平年をかなり下回る見込み。
			増加	減少	

凡例			
⇒	平年並:±2%	↗↗, ⇓⇓	かなり高, かなり低:±6~15%
↗, ⇓	やや高, やや低:±3~5%	↑↑, ⇓⇓	大幅高, 大幅低:±16%以上